

「20年後のさくら市」作文コンテスト

小学生の部 最優秀賞

いごこちの良いさくら市

さくら市立氏家小学校 4年

工藤 晴仁（くどう はるひと）

ぼくのゆめは、サッカー選手です。そのために、練習をしています。休みの日やチームの練習がない日は、総合公園に行ってボールをけています。かべがあるので、思いきりけることができてうれしいです。夏休みに公園で練習をしていると。となりにサッカーが上手なお兄さんがいました。初めて見る人でした。ぼくがお兄さんの練習を見ていると、優しく話しかけてくれました。とてもうれしかったです。

それから、公園に行くとお兄さんがいないかさがしますが、一度も会っていません。そのかわり、まわりを見わたすことで、いろいろな人がいることに気づきました。まずぼくが練習しているとなりには、テニスをやる場所があって、おじいさんがテニスをしています。道の向こうでは、遊具があり、小さい子が遊んでいます。間にある道は、コースになっていて、おばあさんや若い人が歩いたり走ったりしています。色々な人が集まって、自分のしたいことを楽しんでいると思ったら、この公園は、すごく大切な場所だと気づきました。お父さんに聞いたら、前は、今のような公園ではなかったと言っていました。大人の人がいごこちの良い場所になるように考えてくれて今ようになったのだと思いました。

二十年後、ぼくは、サッカー選手になっているはずです。夏休みに会ったお兄さんより上手になっていると思います。そして、あの公園で練習をしていると思います。さらに年を取ったら、公園でテニスをしているかもしれません。そう考えるとわくわくします。ぼくもあの公園がみんなのいごこちの良い場所になるよう、考える一人になりたいです。また、そういう場所がさくら市にふえるといいです。だれもがいごこちの良い場所がたくさんあるさくら市に、二十年後もすみたいです。